

5年ぶり最安値圏に

鈍い製品需要、下げ基調続く

関東の国産材丸太の相場は5月末から6月にかけて一段安となり、2015年以来5年ぶりの最安値圏に入ってきた。出材量は徐々に減ってきたが、工場が丸太手当てを抑えているため需給は緩和したままだ。製材品の荷動きも4、5月は前年よりおおむね1割程度少ない状態で推移し、6月に入ると堅調だった大手プレカット向けも鈍さが目立ってきた。荷余りで買い手市場のため、製品価格も下げ基調が続いている。製品需要はこれから夏場にかけてさらなる落ち込みが予想されており、丸太、製品とも当面相場の回復は難しい見通しだ。

杉3径柱取りは、4らもいったん値動きがた。特に、通常は周辺月から5月連休明けは落ち着いたが、5月末より一段高値水準にある。1万5千1万1000円から6月にかけて9000円台(同)が増え、1万1000円(同)が割れ(同)になってきた。

ため、今後周辺相場にも影響すると見られる。杉は、3径柱取りは安いながらもまだ売れるが、3・65×4径中目や中目以上の大径材は、買い手の付かない量が増え、荷余りが加速してきた。杉以上に値下がりが目立つのは桧で、桧3径柱取りは1万2000円(同)3000円(同)を中心にして1万1000円(同)も増えてきた。

円台(同)も増えてきた。相場の中心値が1万2000円(同)を下回ると、5年前の最安値記録を更新することになる。桧4径土台取りは1万3500円(同)を中心にさらに下値も広がっているが、柱取りに比べて一段高く、安いながらも引き合いは比較的良い。このため、共販所や市場では4径造材を増やすよう山側に呼び掛けている。製材品は、連休明けの荷動きは当初懸念されていたほどには落ち込まず、おおむね前年比1割減程度に収まった模様。ただ、6月に入ると「売りにくさが増してきた」との声が

強まった。一様に先行きの見通しは立たないといわれるが、少なくとも7、9月の需要が前年より落ち込むことは確実視されており、減産に入る工場が増え



集成材
お問い合わせ下さい
FSC C121389 SGEC/31-31-1007 「緑の環境」

TSC 株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>

が下がっていることも買い手の値下げ圧力につながっている。特に需要の鈍さと相場の弱さが目立つのは杉柱で、杉柱3径KD特等105径角は4万8000円(立方径)前後、同120径角は4万4000円(同)前後を中心に、地域や量など条件によっては極端な安値が出回ることになった。さらに、A品の価格が下がったことで、柱に限らず全般にB品の引き合いが落ち込み、過剰在庫になりつつある。

ただ、杉間柱3径KD特等105径×30、45径のみ引き合いが堅調で、5万円台(同)の相場が堅持される場面もまだ多い。杉に比べて堅調な相場を維持してきた桧製品も、丸太の値下がりや背景に安値が引き出されるようになり、桧

土台4径KD特等105径角が6万円(同)前後、桧柱3径KD特等105径角が5万8000円(同)前後を中心に下値が広がってきた。